客船よもやまばなし

＜連載⑥＞

カリブ海クルーズ体験記(1)

大阪府立大学船舶工学科講師
池　田　良　穂

現在，世界的なクルーズ・ブームであるが，クルーズのメッカといえばなんといってもカリブ海である。この水域には大小様々なクルーズ客船がたくさん稼動しており，クルーズが大きなレジャー産業として成り立っており，マイアミの港における盛況ぶりは，前号でご紹介した通りである。

このカリブ海では，古くからクルーズが行なわれていたが，現在のような定期的クルーズが始まったのは，1960年代も終わりの頃であった。10,000～18,000総トン程度のクルーズ客船が幾隻か建造され，1～2週間の定期クルーズを実施し，それが大成功を納めて現在では5万総トン以上のクルーズ客船が続々と建造され，カリブ海クルーズに投入されつつあるほどの盛況ぶりを呈している。このカリブ海のクルーズは，船ファンの筆者としては，是非とも体験しておきたいものであったが，その機会はなかなか得られなかった。しかし，今年の3月，ついにその機会に恵まれた。以下に，その体験記を簡単にご紹介しよう。

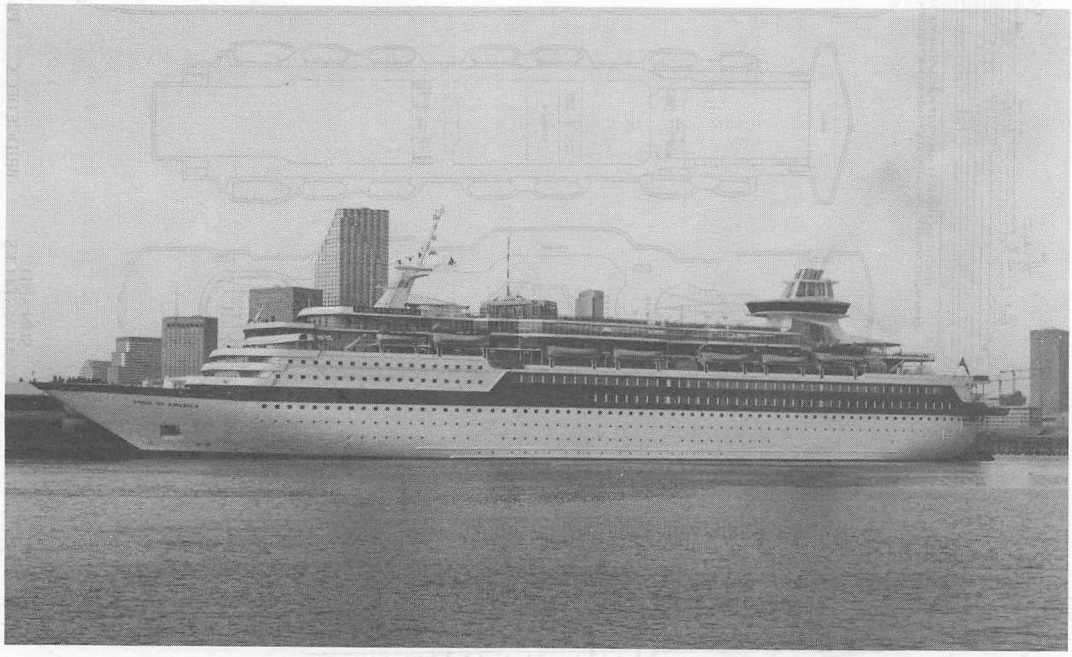
船はロイヤル・カリビアン・クルーズ・ラインのソング・オブ・アメリカである。1982年に，クルーズ客船の建造では定評のあるフィンランドのヴァルチラ・ヘルシンキ造船所で建造され，総トン数は37,584トン。ロイヤル・カリビアン・クルーズ・ラインが3隻のクルーズ客船を用いて十数年にわたってカリブ海クルーズを運航してきた経験に基づいて計画・建造された船だけに，正にカリブ海クルーズのための典型的なクルーズ客船といえる。旅客定員は1,575名，乗組員は500名である。同社は，カリブ海クルーズを実施する数ある運航会社の中でも，比較的ハイグレードなサービスを売り物にする会社で，その社船は，各種のクルーズ・ガイドブックでもトップレベルの客船としてランクされていることが多い。

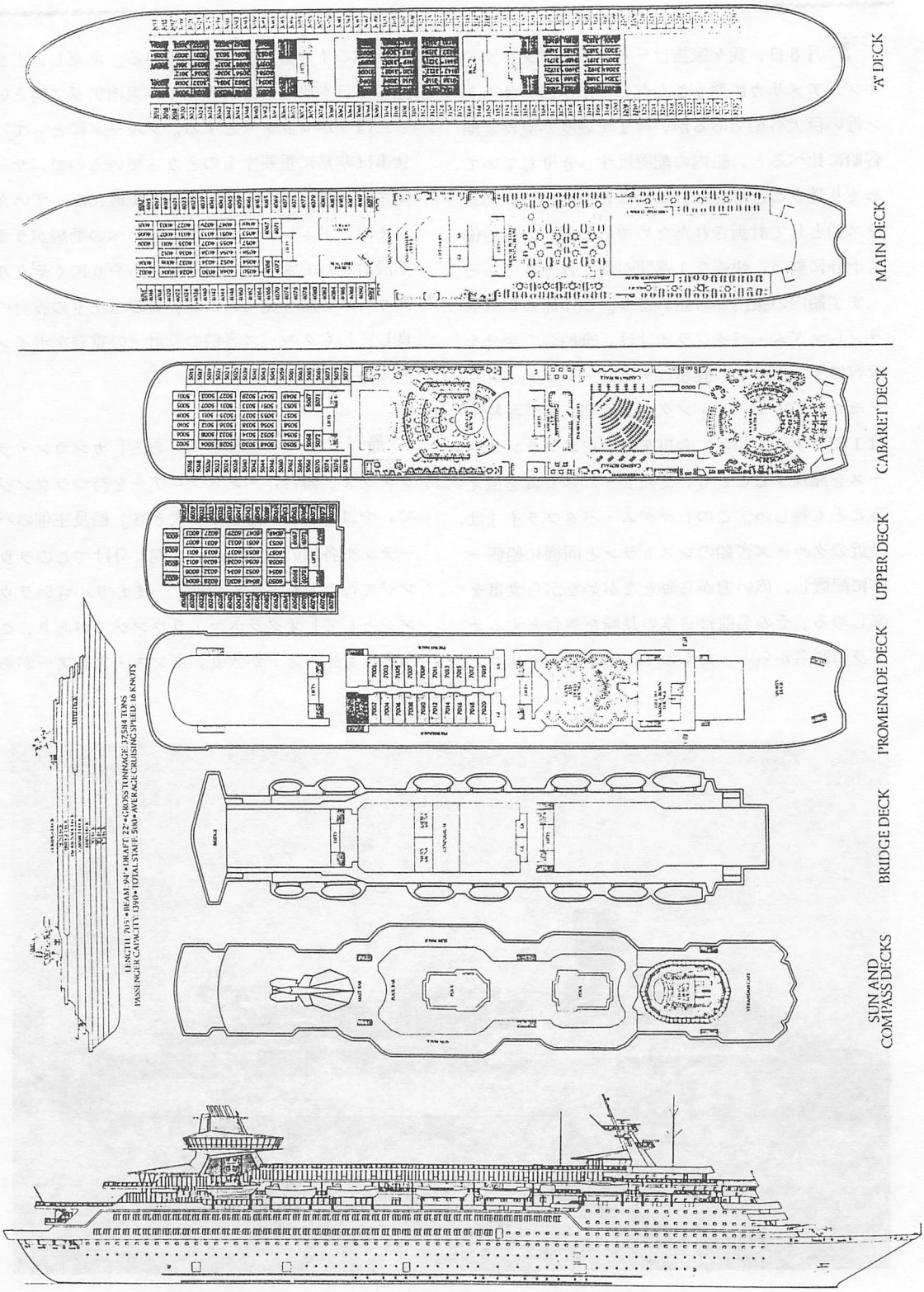
船賃は，1週間のクルーズが約1300ドルから。現在の円高下では，約17万円である。この値段で，カリブ海の島々を周り，4食付き（ミッドナイトに夜食がでる），毎晩のショーは無料，生バンドの演奏は無料と，いたれりつくせりのサービス込みであるから，決して高い料金ではない。しかも，アメリカ各地からの航空機料込みであるからなおさらである。すなわち，日本から行く場合には，ロサンゼルスまでの格安航空切符を入手すれば（今年2月時点で往復約13万円），後はすべてクルーズ料金に入っているというわけである。（船上でのアルコールの代金は含まれていない）30万円ほどで，一週間のカリブ海の豪華なクルーズが楽しめるようになったのだから，円高様様である。

3月8日，我々家族はマイアミ港でソング・オブ・アメリカに乗りこんだ。さすがに，4万トン近い巨大客船であるが，今まで幾度か見た定期客船に比べると，船内の配置はすっきりしていて，あまり迷うこともない。これは，当初からモノクラス船として計画されたためであろう。公室設備も十分に整い，快適な1週間がおくれそうである。

まず船内の案内から始めよう。800席のレストラン「マダム・バタフライ」は，全船客の半分を収容できるもので，食事はメイン・シッティングとセカンド・シッティングの2回制。大型客船では1回ですべて船客に食事を出すレストランスペースを確保することも，またサービス要員を揃えることも難しい。この「マダム・バタフライ」は，最近のクルーズ客船のレストランと同様に船側一杯に配置し，広い窓から海をながめながら食事を楽しめる。その名前は日本の長崎を舞台とするオペラの題名からとったもので，全体的にオリエンタル調のインテリアになっている。ただし，どう見ても日本調とは言いにくく，東南アジア調といったほうがピッタリとする。クルーズにとっては，食事は非常に重要なものとなっているので，サービスのし易いように考慮された配置になっていた。たまに，ギャレーからレストランへの動線がうまく設計されておらず，サービスがやりにくそうなクルーズ客船も見られるが，この当たりの設計の良し悪しもクルーズ客船の設計上の重要なポイントである。

最大の公室は船体中央にある「カンカン・ラウンジ」。舞台，ダンスフロアーを持つラウンジで，やはり約800席程度の大きさ。船長主催のパーティや各種のショーは，2回に分けてこのラウンジで行なわれる。この他，一まわり小さいラウンジとして「オクラホマ・ラウンジ」があり，こちらにも生バンドが入り，ダンス・フロアーがあ





SONG OF AMERICA

る。若者向けにはディスコ・ラウンジもあり，これもかなりの広さがある。

この船の最も特徴的なラウンジは，煙突の中腹に設けられた360度の展望を楽しめる展望ラウンジ「バイキング・クラウン」。極めて眺望のよいラウンジで，私が最も気に入った公室である。

カリブ海のクルーズ専用船だけあって，サンデッキのスペースは広い。緑色のカーペットを敷きつめたサンデッキは，2つのプールの周りとブリッジの上部に位置し，沢山のデッキチェアーが並べられている。このサンデッキ周辺だけで3ケ所のオープン・バーが設けられ，ドリンク類のサービスをしてくれる。

プロムナード・デッキとスポーツ・デッキは，船客にとっては重要なスペースとなっている。すなわち，毎日4食の十分すぎる食事で太った体を，少しでも痩せさせようという船客で，朝から一杯になるのがこの2つの甲板であるからである。この船では，この2つの甲板はニス塗りの木甲板であった。

この他，シネマ，カジノ，ギムナジウム，サウナ，売店等の各種の施設が設けられており，船内で不自由することはほとんどない。

船内生活の様子，サービス形態，エンターテイメント等については，次回に詳しく紹介することとしたい。

暑中お見舞申しあげます

社団法人 日本旅客船協会

会長 尾上浩彦
副会長 立花欣一
副会長 仁田一也
副会長 松村文甫
副会長 中野大
副会長 堀ノ内一雄
理事長 増田信雄
常務理事 木村敬宇
常務理事 中西博

東京都千代田区内幸町二丁目一番一号
〒100
(飯野ビル九階)
電話(〇三)五〇一—六七六六(代)